

“環境の世紀”を切り拓く

2011年2月10日印刷 2011年2月15日発行 1966年6月17日 第3種郵便物認可
ISSN0916-9172CODEN:SKTAET

月刊 資源環境対策

2

JOURNAL OF RESOURCES AND ENVIRONMENT Vol.47 No.2

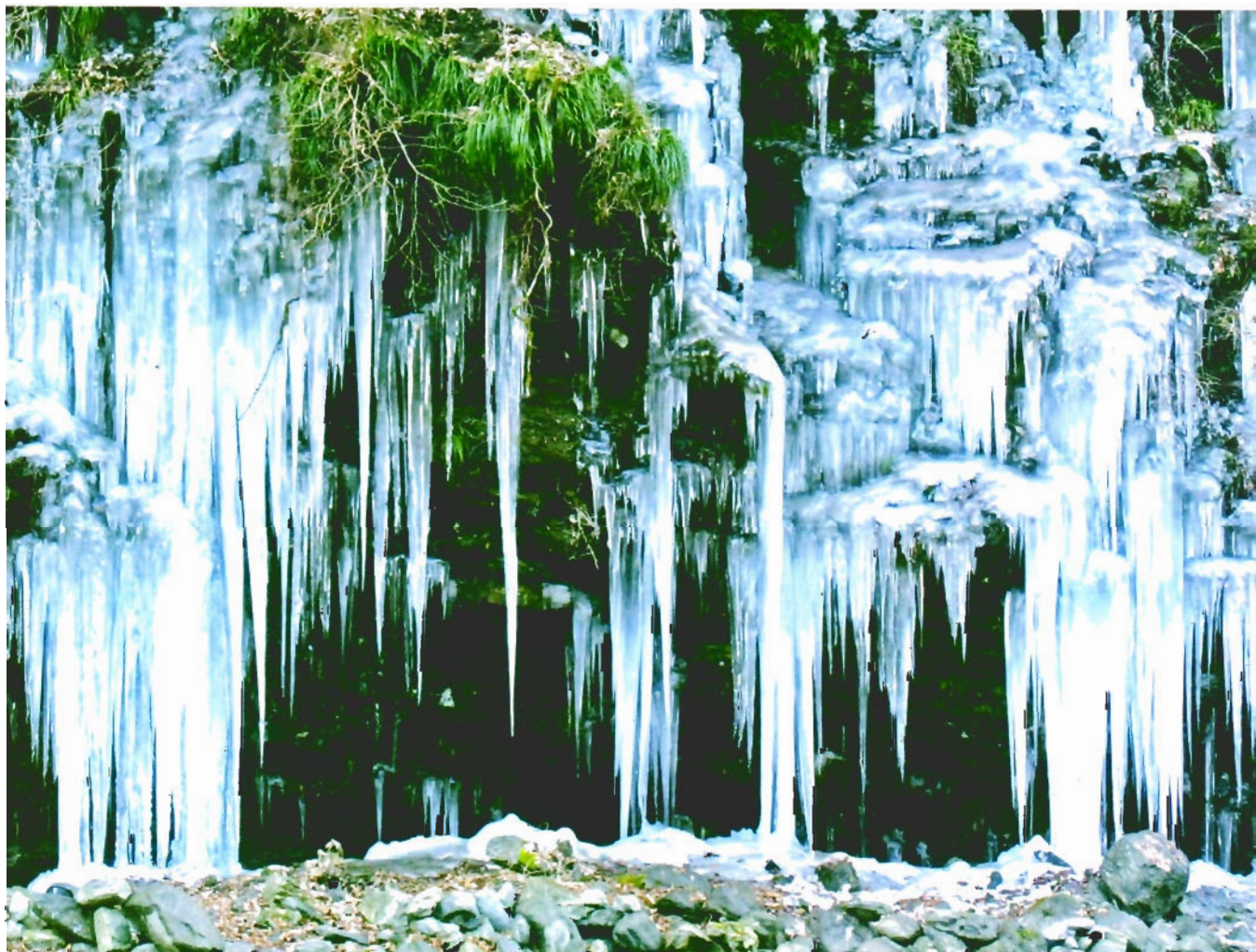
2011

特集

地球温暖化問題をめぐる最新事情

SME_S_EMS (中小企業向け環境マネジメントシステム)

グリーン経営認証取得の実際とさらなる一步をめざして
エコアクション21審査人の生活—審査人で独立できるか?



エコアクション21審査人の生活 —審査人で独立できるか？

宇田 吉明*

●はじめに

エコアクション21(以下、EA21)の認証取得が5,000件を超え、6,000件に届こうとしている(図1)。一方、エコアクション21審査人(以下、審査人)の数は約820名登録されており、一人当たりの審査件数は年間6~7件の勘定となる。

しかし実際には、ほとんど審査実績がない審査人もいるので、審査実績の多い審査人は年間40~50件程度をこなしていると思われる。また、最近は若い人も審査人になっており、雇用の創出にも寄与し始めているようだ。そこで今回は、審査人の収入で生活ができるかというテーマで話を進めたい。

●審査人の生い立ち●

1996年に現在のEA21のもとになる「環境活動評価プログラム」が環境省により発行された。環境省に登録された環境カウンセラー(事業部門)の役割の一つが、この環境活動評価プログラムの普及促進活動であった。

このような背景もあって、2004年に環境活動評価プログラムがエコアクション21認証登録制度に移行し、審査人の認定試験に応募したのも圧倒的に環境カウンセラーが多かった。元々、環境カウンセラーは環境関連企業のOBが中心であったため、審査人も第一線を退いた人がほとんどであった。

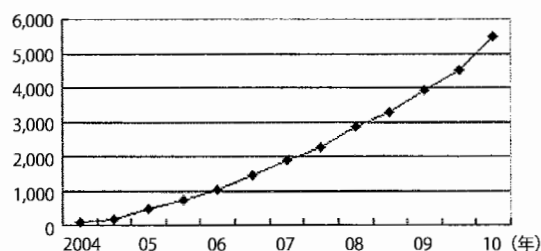


図1 EA21認証登録件数の推移

また、当初は審査件数も少なく、年金生活者や、他に仕事を持ちながら機会があれば審査を実施するような人たちでのスタートであった。その後、毎年1,000件程度の新規登録があり、EA21の注目度が上昇し、ISO14001審査員(以下、審査員)も審査人の資格を取得するなど、審査人が多様化してきた。

●EA21審査料金●

一般に、事業者がEA21の認証取得に要する費用はISO14001より安価である。このため、審査人は審査員より収入面で魅力がないと見られてきた。ところが、審査員の審査単価が下がり、主任審査員でも審査人と1日当たりの収入は変わらなくなってきた。むしろ、リーダーでなければ審査人の方がよいといえる。このことが、審査員が審査人に興味を持ち始めた要因と思われる。

* Yoshiaki Uda 宇田環境経営研究所

●EA21審査システム●

ここで、EA21認証登録のしくみを紹介する(図2)。このしくは、現在見直しの検討が行われている。

ISO14001と異なるのは、審査人が独立していることだ。事業者は審査人を希望することはできるが、選定するのは地域事務局になっている。したがって、審査人はただ待っているだけでは審査の機会が回ってこない。審査人として相当の努力をしないと、選ばれる一人前の審査人にはなれないのである。

これは、審査人に限ったことではない。収入は天か降ってくるものでは決してない。ボランティアな努力も含めて、地道な努力をして初めて、少しずつ果実を収穫できるというものだ。

●EA21審査工数と審査料金●

審査料は1人・日5万円(税抜き)と決められており、審査費用と標準審査工数が中央事務局のホームページでも公開されている。

審査で仮に現地審査1人・日とすると、書類審査で0.5人・日、審査報告書作成で0.5人・日、合計2人・日となり、審査費用は10万円(税抜き、源泉徴収前)となる。標準審査工数は登録審査、中間審査、更新審査ごとに中央事務局のホームページに掲載されている。

登録事業者は90%が100名以下の中小企業であることから、審査工数は2~3日以下が圧倒的に多い。環境負荷の少ないオフィス系の事業者で60名以下であれば、2回目以降の中間審査では1人・日となる。

●EA21審査で生活できるか?●

さて、本題の「EA21審査で生活できるか?」であるが、私の答えは、「本人次第」である。

定年後の再就職者なみでよければ、月に2、3件の審査があれば十分であろうし、年金生活者であれば1件でもよいかもしれない。ま

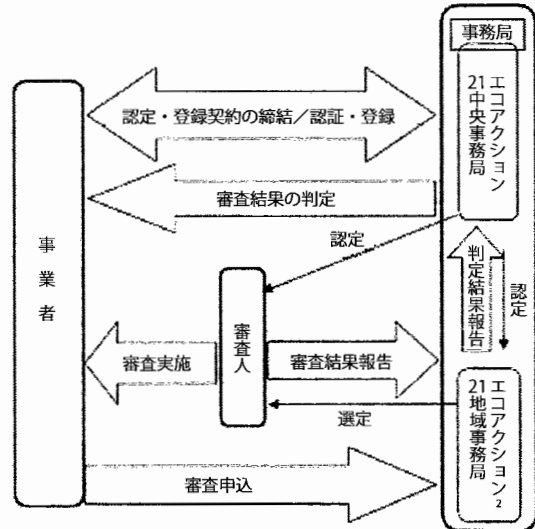


図2 EA21認証登録のしくみ

た、40、50代であれば、年間数十件の審査がないと十分ではないだろう。例に週2回の審査まで増やしたとすれば、年間約100件で1,000万円を越す勘定になる。

●EA21審査は何件まで可能か?●

年間100件とするためには、バランスよく週2件程度にしないと無理が生じる。

EA21の審査では、単に要求事項との比較で指摘するだけでは不十分である。取組みに対する助言まで踏み込んだ審査が求められている。したがって、書類審査の段階で受審事業者の実態、方針や目標・活動計画を達成するために不十分なところを十分に調査し、適切な助言ができるように準備してから現地審査に臨まないと、受審事業者の満足は得られず、次回は審査人の希望欄に名前を書いてくれないと思わなければいけない。さらに、中央事務局からの受審事業者へのアンケートにも「審査が有効であったか」「同じ審査人を希望したいか」などの項目があり、有効で適切な審査が求められている。

したがって、事前準備を考えると週2件くらいが適切と思われる。ただし、土日や祝祭日をフルに活用すれば瞬間的にはもう少し

なせるかと思うが、無理は長続きしない。

●EA21審査のスケジュールリング●

EA21審査はISO14001の審査と異なり、選定された審査人が事業者と直接相談し、登録日を勘案しながら、審査日程を決められるので、ある程度はスケジュールのコントロールが可能である。したがって余裕ができ、審査案件を自分で選べるようになれば、バランスよくスケジュールを組むことも可能だ。

実際には、自治体イニシャティブ・プログ

ラムや関連企業グリーン化プログラムでの集合研修に参加して受審する事業者は、5～9月頃に集中するため、時期的に重なることが多いという課題もある。

●めざせ！ 若い審査人！●

これまで述べたように、一朝一夕には行かないが、努力次第、工夫次第では、専門の審査人も可能だと思う。事業者の地球温暖化防止対策の請負人として、若い審査人が増えることを期待したい。

*
* *